

電気使用量の削減（5工場）

- ・こまめな消灯

各工場は「電気使用量削減ルール」を作成し、社内掲示などで周知することで、電力削減意識を徹底しています。またトイレの照明は使用者が消灯。廊下や玄関・敷地内外灯の照明を機能上問題がない程度まで間引きし節電に努めています。

- ・空調機の運転スケジュールの見直し

季節、気温・湿度別に、工場稼働時間などによる空調機運転のスケジュールを設備担当者話し合い、運転時間の効率化（運転時間の短縮）を進めています。

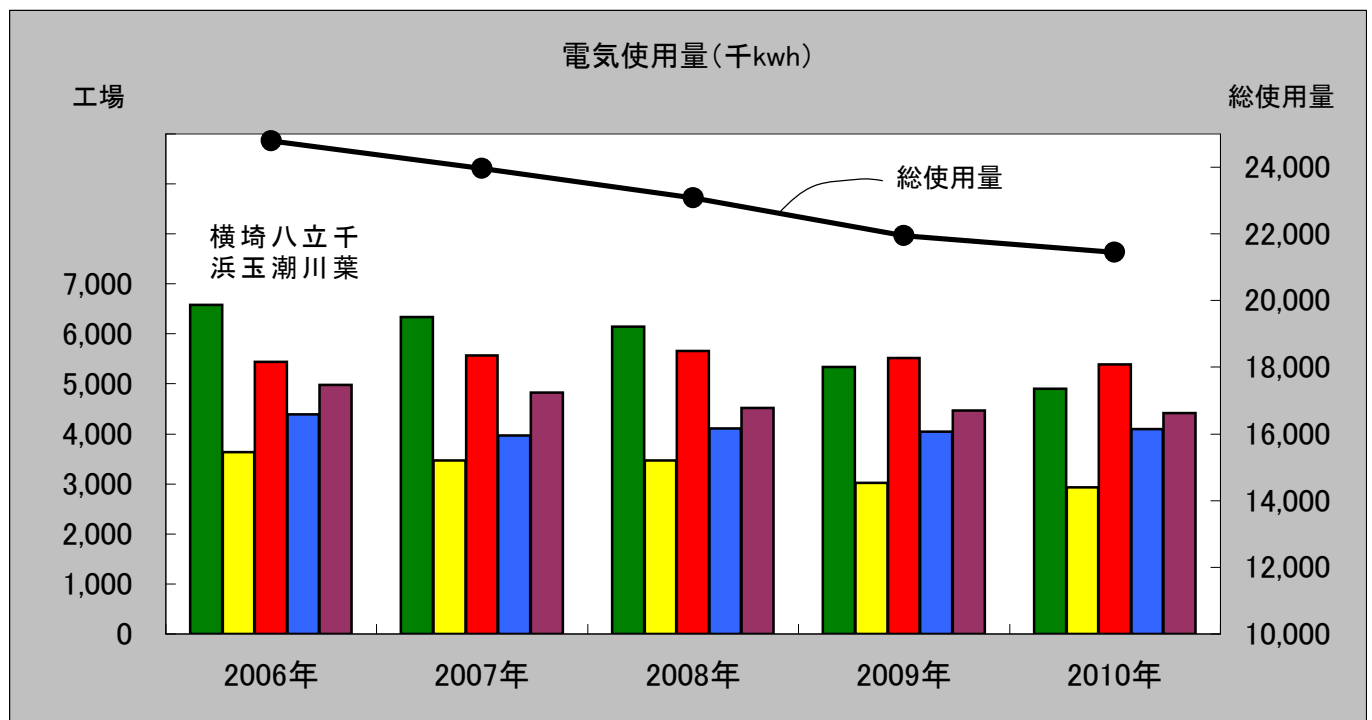
- ・クールビズ・ウォームビズの実施

夏季の6月－9月をクールビズ期間、冬季の11月－3月をウォームビズ期間とし、温湿度設定を含めた節電対策を実施しています。

2010年実績

横浜工場	4,609,452kwh	CO2排出量 06年比 -27.24%	(666トンCO2減)
埼玉工場	2,926,468kwh	-19.34%	(271トンCO2減)
八潮工場	5,393,602kwh	-0.76%	(16トンCO2減)
立川工場	4,103,158kwh	-6.66%	(113トンCO2減)
千葉工場	4,416,802kwh	-11.34%	(218トンCO2減)
合計	21,449,482kwh	-13.43%	(1,284トンCO2減)

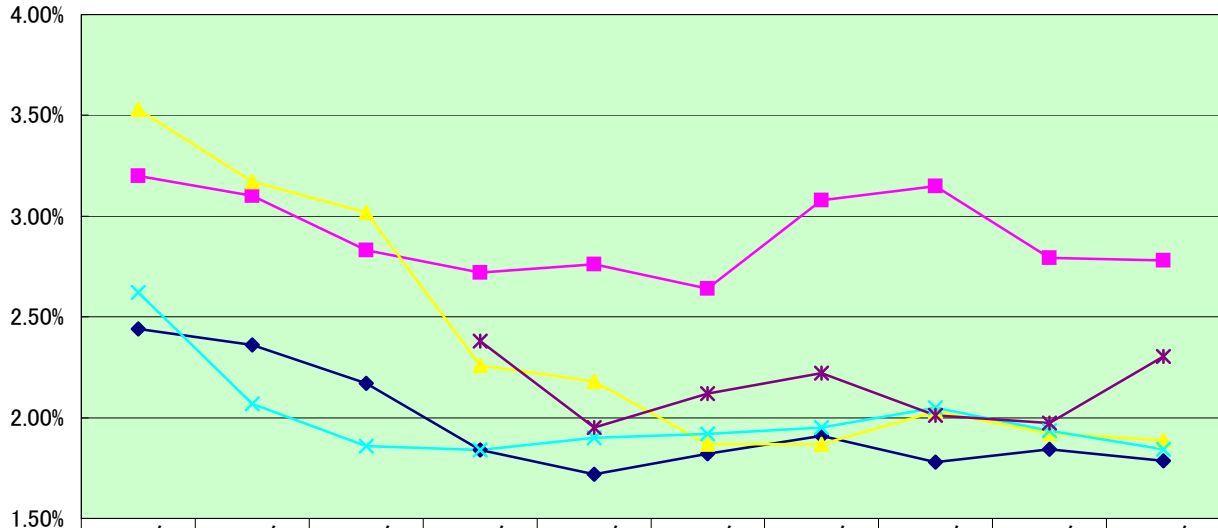
kwh=キロワットアワー



5工場の損紙率

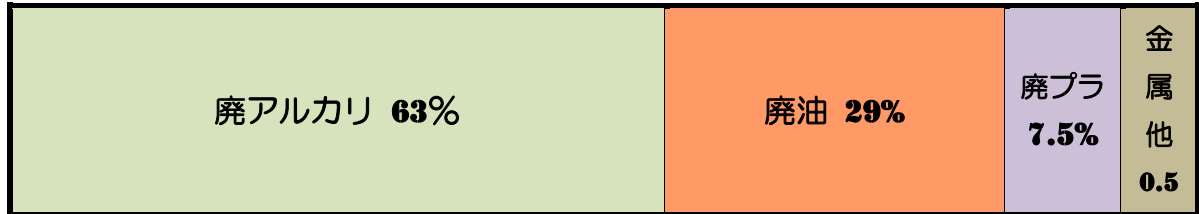
印刷開始時や終了時に出る不良紙（損紙）の低減に取り組んでいます。2010年の損紙率は、5工場が年初に決めた環境管理目標をすべて達成することができました。各工場では機器の設定変更や輪転機の保守点検、集中清掃など様々な対策を行い、損紙を着実に減らしています。

損紙率 年間実績（用紙の総使用量に対する不良紙の割合）



	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年
◆ 横浜	2.44%	2.36%	2.17%	1.84%	1.72%	1.82%	1.91%	1.78%	1.84%	1.79%
■ 埼玉	3.20%	3.10%	2.83%	2.72%	2.76%	2.64%	3.08%	3.15%	2.79%	2.78%
▲ 八潮	3.53%	3.17%	3.02%	2.26%	2.18%	1.87%	1.87%	2.03%	1.92%	1.89%
× 立川	2.62%	2.07%	1.86%	1.84%	1.90%	1.92%	1.95%	2.05%	1.93%	1.84%
✱ 千葉				2.38%	1.95%	2.12%	2.22%	2.01%	1.97%	2.30%

産業廃棄物の種類と割合



2010年度実績

首都圏印刷の5工場では、新聞印刷の工程で以下のような産業廃棄物があり、削減と再資源化に取り組んでいます。

* 廃アルカリ（現像液）

新聞製作の製版工程で印刷機（オフセット輪転機）にかける印刷版（CTP版）は0.3ミリの薄いアルミ版に感光剤が塗布されており、光を当てることにより印刷される部分と印刷されない部分が作られる。印刷されない部分は強アルカリ性の現像液で溶解され、この溶出された現像液が廃液となり産業廃棄物として排出される。

* 廃油（廃インキ、洗浄液）

印刷物はインキと紙が使われる。新聞印刷も印刷機からインキが供給されインキローラーをインキがつたわり印刷版に転写される。このとき、すべてのインキが無駄なく使われればよいが微量ではあるが余ったインキも出る。この余りインキはインキパン（受け皿）に溜まり、このインキが廃油として処理される。

* 廃プラスチック（包装材料、ブランケット他）

新聞製作工程で排出される廃プラスチックは、主に印刷機で紙にインキを転写するブランケット（布と合成ゴムで作られている）、インキがついたブランケットを洗浄する不織布などがある。また、新聞の束を梱包結束し発送するために使われるポリプロピレン（PP）フィルムやバンドなどが廃プラスチックとして排出される。

産業廃棄物減量への取り組み

- ・ 現像液（廃液）削減装置を設置し、廃液量の大幅削減に取り組んでいます。
- ・ 産業廃棄物として処理していた廃ブランケットの一部（金属部分）、金属くず、スプレー缶などを有価物化しています。
- ・ 不織布やPPバンド、フィルムくずを再資源化するため、専門業者への引き渡し、廃棄物の減量化に努めています。

産業廃棄物処理業者を見学

- ・ 産業廃棄物のリサイクル処理フローを確認するため、東京都江東区若洲の最終処分場（有明興業）の見学を実施し、産業廃棄物処理の実態を調査している。（写真）

